

ここのところ何度か、地層、岩石採取、巡検下見などでよく東京近郊へ出かけています。6月に入ると頻繁に出張が入り、またフィールドワークには暑い日が多くなるので、今のうちに素材収集や、自分の専門分野である地学の基礎研究をしておきたいと思っているのです。

まずは、「根府川 (ねぶかわ)」にきました。東海道本線 (湘南電車) の小田原から熱海寄りに2つ目の駅です。東京から100kmを超えると出張に特急列車も利用可能なのですが、根府川は東京駅から90kmなので、各駅停車に乗りました。根府川は湯河原や熱海のように温泉もなく、目だつた観光施設もないので、この駅で乗降するのは地元の人やだけです。通学の小学生も利用しています。

このあたりの海岸は、火成岩で覆われた磯になっています。そのほとんどは、新生代中期更新世以降の「箱根火山群噴出物」(Products of Hakone Volcano Group)、特に「外輪山噴出物」(Somma volcanic products/地質図略号 Ho) です。岩質は玄武岩・安山岩・流紋岩を含む溶岩と火砕岩です。天気は悪かったですが、いくつかの標本を採取できました。

圧巻だったのは、根府川駅下りホーム (熱海方面) からの眺めです。根府川駅は海のすぐそばにありますが、海岸が切り立った崖で、下り線のホームはまるで海面のはるか上空に浮いているようです。事実、海岸から駅までの直線距離はわずか140mですが、標高差は45mもあります。「崖」と呼んでも良い勾配です。実際に駅から海岸まで歩くのは大変で、帰りはもっと大変でした。

東海道本線は、新幹線と並行している在来線としては珍しく、特急も多く運行しています。また、現在でも貨物輸送が非常に盛んで、貨物列車が多いのも特徴です。この狭いホームの線路を、下田行の特急列車や長編成の貨物列車がビュンビュン通過していくのはちょっとした迫力で、「×ゲーム」にちょうど良い感じでした。

(2025年4月下旬/東海道本線根府川駅)

